

念いの種まき

まほろば主人

宮下周平

正月年頭の店開き。

松本愛子先生主宰、528Hzの「まほろば合唱団」が新春のお祝いに、店内で唄って下さいました。

終盤、先生から俄かに駆り出され、指揮を任されたのです。その時、普段忘れていた遠い記憶が甦って来たのでした。

それは、音楽に目覚めた中学生の頃を思い出していたのです。ことに、指揮者のカラヤンに憧れ、レコードをかけては腕を振って自己陶醉して、とうとう本人と会うまでに至ったという強烈な想いなのです。しかし、それ以後、音楽のことは途切れてしまっています。

それから、ほぼ50年を経て、人生初めての指揮をした時、「夢は叶うのか！」と気付かされたのです。潜在的に、一粒の種が撒かれれば、それは何時か必ず芽を出し、花開く時が来る、と。

実に、取るに足らない身の出来事に過ぎないのですが、人のささやかな思いでも、野の花のように、小さくも花開くときが来る…。

今年30年を迎えたまほろばは、このぎっしり詰まったみんなの思いの種がバラ撒かれ、そして次々と芽を出し、花を開き、実を付ける…といった花畑を思い浮かべるのです。この集合無意識が毎日毎

日、何らかの形で播種され、開花結実されていていくのです。まるで、心のまほろば自然農園のようです。

一途に思う「心のふるさと造り」で始めたまほろば。

多くの心ある人々、生産者や消費者が寄り添い寄り集まれば、人類の笑顔、住み良い地球、美しい日本にしたいという思いは、必ず何時か実現すると信じるのです。その思いが強ければ強いほど、早くその時が来るように思えるのです。

来年は、再び^{ゼロ}0のスタートラインに立って、無心に理想に向かって走り始めようと思います。

皆様も、ご一緒に「^{おも}念いのスタートライン」に立ちませんか。

今年一年、そしてこの30年、大変お世話になりました。

来年も、みなさま方にとりまして、何時でも何処でも幸せな時の花が一杯開きますよう、お祈り申し上げます。

30 周年の今年 を振り返って

1. 創業 30 周年「懐かしき未来」 イベント

10 月 13 日に開催したまほろば 30 周年創業記念イベント『懐かしき未来（あした）』。500 名余りにもものぼる多くのお客様にお越し戴きまして、盛大に開催出来ました。30 年にわたって、蔭に陽に支えて下さったお客様や業者の方々、そして従業員スタッフの面々、ありがとうございました。深くお礼を申し上げたいと思います。当日、小泉先生をはじめ、パネラーの方々のご協力と友情を決して忘れることが出来ません。7 時間という長丁場にも関わらず、最後まで見守って下さった皆様に、深く深く感謝の意を表させて戴きます。ありがとうございました。これを一歩として、新たな歩みを始めます。



2. 京都・東京 講演会



大きな講演会が京都と東京でありました。

11 月 16 日、東京・求道会館で「～衣食革命～まれびとたちの宴～」で『情緒と食』と題して、お話させて戴きました。今まで最も伝えたかった事柄を、立体的に映像や音を通してお話が出来て幸いでした。食の根本理にも通じる世界観・人生論を一歩踏み込みこめたかと思います。



京都の「千島（腸造血）学説研究会」でも、学究の皆様と初めての交友ができて、嬉しく思いました。

3. 新聞で紹介される

3月27日に、北海道新聞の「トップの部屋」というシリーズに、まほろばが取り上げられました。1面の2/3を占める広さで、驚きました。森川記者は、北大水産学部出身の有機農業に詳しく、自ら玉葱の育苗をしているほどで、まほろばの真精神を密に伝えて下さって、ありがたいことです。



9月18日には、北海道新聞朝刊の一面にまほろば農園が紹介され、珍しい「三色インゲン」が掲載されました。曇天にも拘らず、撮影時には、一時快晴となり、三色インゲンが光を浴びて喜んでいるようでした。神様のご褒美でした。それにしても、毎年のように、取り上げられて感謝です。



4. 「倭詩」連載終了



「森下自然医学」も5月号をもって「倭詩」の最終回を迎えました。ほぼ5年間、前24回、後26回の計50回となりました。後半を纏めて『倭詩II』を30周年に発刊する予定でしたが、来年の楽しみにになりました。「懐かしき日本」を改めて問うものです。乞うご期待ください。



5. 「まほろばだより」4000号達成！！

まほろばは、商品と情報の二本立てでなっています。この12月の大売出しで、83年の創刊以来、4000号を数えました。15年目で、今の島田編集長に引き継ぎ、更に5年後に工藤さんが加わり、5年前に3000号を数えましたので、2020年頃には5000号達成となります。その時は、盛大にお祝いをしたいものです。一週に2,3枚コンスタントに発行していることになります。二人の苦勞と才覚は大変なもので、これからも、継続は力で発行し続けて参ります。



6. 女神、続々来店



7月に、
ライアー
奏者、池
末みゆき
先生を、
緒方紀子
さんがお

連れして来ました。山崎弁栄上人や岡潔先生をはじめ、私の人生に関わりある人物群と悉く軌を一にする先生の半生には驚愕しました。これほど濃い縁生を知りません。その池末さんを師と仰ぐサウンドセラピストの「AIKA」橋

本恵子さんが9月に来店。聖母を信条とされている透き通るお声に癒される方々が多いと聞きます。11月の「衣食革命」講演会でお会いした琵琶の黒田月水女史。「曾根崎心中」に出演。来年のまほろばでの



演奏会を約束。自作曲「まろうわん」は富士山と木花咲耶姫にまつわるお話だとかで、不思議な因縁。

また、全国の護国神社などで「君が代」を奉唱しておられる鶴沢美枝子さんも。そして、528Hzでお馴染みの松本愛子先生。そして音楽家の大貫妙子さん。それにしても、女性音楽家とご縁の多い昨今である。かような方々が、日本を再建されよ



うとしておられます。まさに、女神の時代、母性の世紀が到来しつつあります。

7. 「ASTAXYZYGY / アスタジー」完成！



5、6年の歳月をかけて、ようやく10月に完成。超臨界抽出のアスタキサンチンと全食品中、最高のORAC値（活性酸素吸収能力値）のクロードを混成させた最先端のサプリメント。そして、その機能を確信させたのが、「ASTAXYZYGY」の名称。両学名を合わせると、抗酸化を意味する「XYZ理論」が浮き出て来る。Asta・・・は宇宙を、Syzygium・・・は惑星直列を意味する、全てを包括し、繋げる意味合いは、

天啓のような不思議な神秘性に包まれる。そして、C-loveに隠された愛。今、すごい勢いで売れ続けている。そこには、何らかの反応があるためではなからうか。



8. 火入れなし！「生醤油」完成

「へうげ生醬」が、実にうまい！火入れしていない証拠の、色が薄く赤っぽいのが特長。酵母が生きると、やはり醤油本来の味を教えてくれる。こんなに違うものか！！

大企業、「生しょうゆ」はマイクロフィルター技術で、酵母やオリを全部濾して、発酵を止める。工場自体が、完全滅菌室状態になっていて、衛生管理が徹底している。火入れ・高温殺菌はしていないが、



果たして自然の味といえるかどうか？

まほろばの何も取り除かない本物の「生」は、冬季間、限定600本販売、お正月の刺身はこれに限ります。

9. 新「へうげ味噌」蔵出し

年末に、「へうげ味噌」の新仕込みの蔵出しが始まりました。これは、実に旨い！クリスマスイブに来店された歌手の大貫妙子さんも絶賛！それもそのはず、今回のから、彼女自ら秋田で栽培した「あきたこまち」が入っているからです。その他、珍しいエジプトで採種された「ツタンカーメンえんどう」（福田農園チーフ栽培）やまほ



ろば農園の16種類の豆類に加えて「銀手亡」（高級羊羹に使われる）も加わり、全体が22種類から、27種類の米や豆類が揃ったも揃った、世にも珍しい味噌が再登場。しかも以前より数段旨くなりました。これは皆さんにきっと飲ばれる自信作です。

10. 「へうげ めんつゆ・ぽん酢」も完成

まほろばオリジナルに『へうげ「めんつゆ」「ぽん酢」』が加わりました！日本一のオーガニックソースの製造メーカー、徳島の光食品さんの島田社



長のご好意で、小ロットで作っていただきました。「へうげ醬」をベースに、「七五三塩」「ひふみ糖」を加え、「イイお嫁さんの素」を原料から煮出して、ダシを取るといった凝り様。特選の材料に加え、特別の仕立て。これぞ、極みといった感じです。将来的には、オリジナル・ソースも加えたいですね。



11. 「イイお嫁さんの素」完成、まほろば出汁シリーズ

これも名付け親が、大貫さんという「イイお嫁さんの素」。ダシの集大成で、25種類の海産だしが入っている出汁の極みつき。これは、だし取り用より、直接食べ物に振りかけた方が、

その深い味わいがダイレクトに伝わる。日本の出しの奥深さよ。世界に冠たる味わいの極地よ。「和食に帰れ!」と言いたいところ。

その各材料を単品での販売も開始。あご煮干など珍しい。また、本格「本枯れ一本鰹節」や「宗田鰹節」など、店内で機械削りのサービスを行っている。本物の味わいを、香りとともに。



12. 海産シリーズ充実

今年、初めてオリジナル豪華鮭箱を作りました。モンゴルの湖水塩と豪州の海水塩で、紅と時鮭の半身の縦塩仕込み。来年から本腰を入れ、本格的に販売します。また、本



枯れと宗田の一本かつを節を削る所から始めた「イクラたれ」。醤油味は、今回搾り立ての「へうげ醬」。旨さ限り無しです。かように、オリジナル海産物が毎年定着し、増えつつあります。

13. まほろば香水、フランスパリで販売



30周年を記念して、緒方紀子さんが、まほろばオリジナル香水に、十字架とメダイをイタリアから取り寄せた格調の高いペンダント風香水入れを作ってください



プレゼントに最適ですね。また、パリ在住のヒーラーのビズネア磯野敦子さんが、フランスでまほろばフレグランスの販売をはじめられました。来年、世界に広がってゆくのが、楽しみです。

ました。微かに漏れ匂う「太古の叡智」と「心の花束」。女性の間で大人気です。正式なものは、ちょっとお高いので、手軽に買い求められるミニボトル香水は、プ



14. エリクサー酵素、一步前進

エリクサー水から発見されたペニバチルスの凝乳酵素を、エッセンチアの篠原氏のラボで試作。芽胞菌というコンタミ（汚染）する性質を抑制しての試作に成功。初の自然食の培地を用いました。次の課題は、大量培養で、最難関。今、その酵素で香林農園ときた牛舎で試作中。これか



らも、長い旅路が始ります。諦めず、焦らず、ゆっくりと……。

15. エリクサーにシュンガイト鉱石搭載

天然でフラーレン構造を持つシュンガイト鉱石をエリクサーに搭載。

只今、それでセラミックを製造中。



新たな機能性を発揮するものとして期待。最先端科学では、超伝導構造として注目を集めているもの。

裏千家茶道の留学生として来



日していたチェコのロベルトさんを通じて、より一層科学と文化の交流に拍車がかかるでしょう。

16. 森の長城プロジェクト（エリクサー基金が参加）

3.11 から、どんどん記憶が遠ざかる日本国民。TPP 推進・原発再稼働の政党の圧勝に国民は日毎バラバラになってゆく。単なる物的或いは金銭的支援ではなく、根本的自然再生、防災対策、あるいは心



の癒しとして。コンクリート瓦礫残骸の痛々しい風景でなく、

幾種もの広葉樹が素晴らしい美観を以って人の命を守る。この素晴らしい「森の長城プロジェクト」は、子々孫々、日本全土が取りむくべき国民事業であり、意識の連携、行動の連帯であります。

鎮魂・復興・再生の思いを込めて



どうぞ、日本人が繋がる大きなチャンスに、あなたも繋がりましょう！！エリクサー基金として募っております。

● 5月28日 ￥300,000

12月26日 ￥50,000

送金させて頂きました。

ご協力ありがとうございました。

17. 米内会長、ご逝去

30年、卸売り市場で、「有機専門仲買」さんとして、道内道外で活躍されていた米内功さんが、8月ご逝去されました。まほろばを陰に表に支えて下さいましたご恩は計り知れません。これからと言う時、残念でなりません。氏の意志を継いで、有機農業をさらに前向きに進めたいと存じます。ご冥福をお祈り申し上げます。

泣いたとて、どうせ逝く人、やらねばならぬ。
せめて波風、おだやかに (江差追分・本唄)



18. 農園がんばれ！！



人の目に付かない農園の仕事は過酷で厳しく、報われないものがあります。

それでも、日々黙々と働く畑のみんなに感謝したいと思います。厳しい雪の日に、夏の日照りの日に、堪えながら、皆さんの喜ぶお顔と元気なお体を思い浮かべながら作業しています。

「冬前播種法」なんか、斬新な農法も発案実践。がんばれ！農園。

